

市役所庁舎の建設・整備に関する調査・研究特別委員会（平成26年2月14日）
大東市本庁舎のあり方の検討（概要抜粋版）【A3資料】に係る補足説明資料

右上2～4頁

左上から8段目「あるべき機能の実現」の評価項目と「○」「△」「×」の基準

I 評価項目

安全を守る拠点

市民生活の安全を守る拠点施設としての機能

- ① 地域の防災拠点機能
- ② セキュリティ機能
- ③ ユニバーサルデザイン

豊かな市民生活

豊かな市民生活をサポートする機能

- ① 市民参画・市民活動拠点機能

持続可能社会

持続可能な社会形成に寄与する施設機能

- ① 環境負荷軽減・省エネルギー化の実現

次代への対応

次世代の社会に対応する機能

- ① 行政サービスの高度化・多様化への対応
- ② 将来変化への対応（経済性・空間等）

地域のシンボル

社会のシンボルとしての機能

- ① 周辺環境への配慮
- ② まちのシンボル

Ⅱ 「○」「△」「×」の基準

「○」「△」「×」については、固定的な基準はないが、概ね下記により評価を行っている。

「○」…課題の生じない整備が可能である。

「△」…解決すべき課題がある。

(内容) **豊かな市民生活**

⇒長寿命化（案）は、現庁舎の形状を踏襲するものであるため、市民参画のためのスペースの確保の検討が必要。

持続可能社会

⇒長寿命化（案）は、現庁舎の形状を踏襲するものであるため、別途省エネルギー化設備の導入の検討が必要。

次代への対応

⇒限られた延床面積で柔軟に変更可能なレイアウトを検討することが必要。

地域のシンボル

⇒長寿命化（案）は、現庁舎の形状を踏襲するものであるため、別途地域のシンボルを付加することが必要。

「×」…解決すべき大きな課題がある。

(内容) **安全を守る拠点**

⇒大東市総合防災マップによると、浸水被害の可能性がある地域のため、防災拠点となりうる整備が必要。

次代への対応

⇒長寿命化・現状機能維持型（案）は、現庁舎の形状を踏襲するものであるため、限られた形状、延床面積の中で柔軟に変更可能なレイアウトを検討することが必要。